57年版青少年白書から
家庭での子供たち

今や少年非行は戦後第3の、しかも最大のピークを迎えています。子供たちは今何を考え、どう行動していくのか。今回は「昭和57年版青少年白書（総理府）」から特に家庭での子供たちについていくつかその実態と意識を見てみます。

◆しつけに対する評価

青少年を健全に育てるには、幼いころのしつけや家庭教育が大切と思う親は84％と最も多く、たいていの親は家庭教育が重要だと認識しています。しかし、社会一般の評価では、しつけが行き届いていないと思う人が約半数を占めています。

◆物の買い与え方

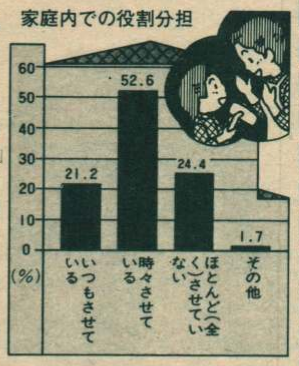
物の買い与え方について、親と子供の意識を比較すると、親は必要以外の物は買い与えていないつもりでも、子から見ると〝どんなものでも大抵は買ってくれる〟とする割合がやや多くなっています。特に最近は自転車、ステレオ、テレビ等の高価な品物が、子供たちの必需品のようにして買い与えるケースも多くみられます。親は自分で思っているよりも、実際には子供に甘い態度をとっているようです。

物の買い与え方

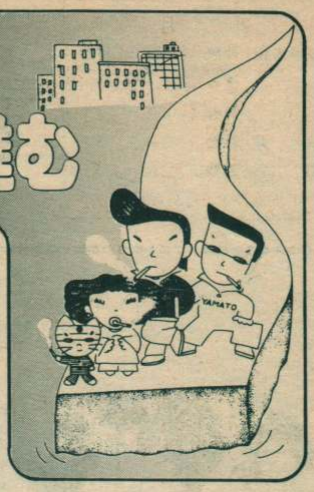
◆家庭内での役割分担

家庭内での役割分担についてみると、約7割の人が子供になんらかの家事や家業の手伝いをさせています。しかし、その内容は「炊事や食事の前後の手伝い」「子供部屋や身のまわりの整理整とん」「買い物や使い走り」など比較的、楽なものが中心となっているのがわかります。

家庭内での役割分担



少年非行の現状
低年齢化が一層進む



連日のように少年非行や校内暴力、家庭内暴力などがニュースで報じられており、大きな社会問題となっています。今年の正月には、市内で孫の家庭内暴力に悩む祖父が、孫を殺すというショッキングな事件がありました。また卒業時期を迎えて中学生や高校生による集団万引事件もひん発しています。

これらの背景には、私たちを取り巻く社会環境がますます複雑になり、青少年の生活や意識にさまざまな影響を与えてきたことを挙げることができます。

明日を担う青少年を立派に育てることは、私たち大人の責任です。家庭や学校、職場、地域社会がお互いに手を取り合って少年を非行から守りましょう。

万引き、喫煙、夜遊び……
二千百人の少年を補導

五十七年中に大館警察署管内で補導された少年は、延べ二千百七十四人で、五十六年に比べて二百五十一人増となりました。とくに窃盗や喫煙、夜遊び、不良交友などで補導された中学生が二倍以上にものぼっており一層非行の低年齢化傾向が強まったのがわかります。

〈犯罪少年〉―十四歳から二十歳未満の罪を犯した少年〉

犯罪少年として補導された少年は百九十九人。このうちの九割が窃盗で、中学生が五十六人、高校生が百二人と急増しています。その手口としてはグループ万引きや乗り物盗（自転車、オートバイ、自動車）となっています。

〈特別法犯少年―刑法以外の法に触れる行為をした少年〉

相変わらず暴走運転による道路交通法違反がほとんどで、百八十九人が補導されました。

〈触法少年―犯罪となる行為をした十四歳未満の少年〉

万引きなどで五十九人が補導されました。

〈不良行為少年―罪を犯す恐れのある少年〉

不良行為少年で補導された少年は千七百二十七人で、中学生高校生による喫煙、夜遊び、不良交友などが目立って多くなっています。

これらの少年に共通していることは、いわゆるせっぱ詰まった犯罪ではなく、ほんの思いつきや〝遊び型〟とも言えるもので罪悪感がきわめて希薄なことです。家庭環境についても、両親が健在のごく平均的な家庭の子が多いという結果が出ています。ただ、両親がいても共稼ぎで、家を空けることが多く、その間自分だけという子供の家が、おうおうにして溜り場となる場合があります。

親はもっと子供の生活を知ってほしい

大館警察署少年補導員の馬淵理さんは「親はもっと自分の子供の生活を知ってほしい。補導された子供たちは、夜、家族に気づかれないように家を抜け出して夜遊びしています。自分の子供は素直でいい子だが友達が悪い〟と言う親もいます。しかし、友だちが悪いと批判する前に、自分の子供がどうして非行に走ったのかと、考える必要があると思います。非行少年の多くは一過性のものです。事件にするということではなく、子供に責任を自覚させ、きちんと処理するという意味で警察に相談してほしいし、親の姿勢や家庭がしっかりしてさえいれば、非行は防げると思う」と話します。

子供たちを暖かい目で見守ろう

中学生の非行が増えたことについて東中学校の鎌田恵美子教諭は「小学生、高校生と比べて中学生が生活、勉強など多くの面で規制されており、欲求不満の状態になり易いことが挙げられます。確かにこうした環境の中で子供たちはがまんすることが苦手になっており、非行の原因の一因になっていますが、親も教師ももっと子供らにがまんさせることを対話や仕事などを通じて教えていく必要があると考えます。与えた仕事は、失敗を繰り返したり、下手であってもいいから最後までやり通させてみること、そしてやり通した満足感を味わせることが重要です。」と言います。

子供たちは本来弱い生き物です。しかしほとんどの子供たちは自分の進む道を真剣に悩み、考え、傷つき、闘っているのです。ただあまりに誘惑と選択枝の多い社会の中でさまよっている子供たちに、わたしたち大人はすぐに非行と結びつけて考えてしまう先入観を捨て、暖かい目で誰彼の区別なく見守り、助けていくことが一番必要なことではないでしょうか。

非行に走る少女たちのほとんどが、付き合っている少年たちを評して「やさしくて、いい人だ」と言います。彼女らには他に〝やさしさ〟を求める場が、人がいなかったのでしょうか。

現在、大館市では高校進学に関しては比較的希望が叶うことが多く、ゆとりある状態です。しかし、将来今より過酷な受験戦争の波が訪れたとき、さらに非行が増加する可能性が十分あります。幸い大館には校内暴力は発生していませんが、これで安心せず、長期展望にたった教育を、学校、行政、そして市民みんなで考え推し進めていきたいものです。

57年の少年補導状況（数字は人数）

行為別＼学職別		小学生	中学生	高校生	有職少年	無職少年	計	56年比
不良行為少年	飲酒		11	36	71		118	＋37
	喫煙		31	212	593	836	836	＋106
	夜遊び		30	117	215		362	＋92
	不良交友		12	53	40		105	＋35
	怠学		5	21			26	＋10
	不健全娯楽		7	18	3		28	＋9
	その他	30	44	79	99		252	−122
	計	30	140	536	1,021		1,727	＋167
	56年比	＋12	＋49	＋92	＋14			
犯罪少年	窃盗		50	93	36		179	＋56
	恐喝		1	1	2		4	＋4
	わいせつ		5				5	＋5
	その他			8	3		11	−1
	計		56	102	41		199	＋64
	56年比		＋32	＋23	＋9			
触法少年	窃盗	49					49	＋4
	その他	10					10	＋8
	計	59					59	＋12

市長の対話ノート No.65

三風

風景、風土、風味これを称して「三風」と表現してみました。

「地方の時代」といわれて久しくなりますが、これまでの「画一と集権」ではなく「多様と分散」を求めようということです。

さて、その「多様」という言葉ですが「個性」とおきかえてもよいのではないでしょうか。あるいは「個性」というのが抽象的であり適当でないとすれば「らしさ」といえばどうでしょう。ではその「らしさ」とは。三風、つまり「風景」「風土」「風味」ということになるのではないでしょうか。

私たちは、お互いに毎日それぞれ仕事をしていますが、その仕事が画一になっていないでしょうか。もっと「大館らしさ」を追求し、大館の風景、風土、風味を活かす仕事に徹して「個性豊かな大館」を作らなければならないと考えます。

未見の我

卒業式のシーズンを終えました。就職そして進学された皆さんにお祝い申し上げます。

ところで社会に巣立つ皆さん、学生時代の試験の答案は、正解は一つよりありませんでしたが、社会人の正解は一つではないのです。そしてまた問題が出されないかも知れません。

しかし、自ら問題を作って、しかも正解のない解答を求めなければならないのが社会なのです。

つまり「未知への挑戦」が求められるのが社会であって、就職、イコール安住ではないということです。

「未見の我」―自分の将来像は誰も見たことはありません、しかし、社会人への第一歩を印すに当たり「将来像」を描いて見ることこそ大切なことです。例え夢や願望であってもよいのです。この夢や願望を現実にするためにはどうすればよいのか、それは経験と時間と努力が教えてくれるはずです。

常に「未見の我」を求めてチャレンジする、それでこそ夢も願望も開けて来ることでしょう。諸先輩がそれを事実として証明してくれているのです。安易な妥協、平坦な道の選択は「未見の我」へのチャレンジとは別の方向に進む結果になってしまうことを忘れてはなりません。

社会は、決して一人では生きて行けません。困った時には知らせてください。共に悩みましょう。皆様の大成を心から期待申し上げます。

畠山健治郎